



馬の学校

馬の学校通信

2001. Summer vol.3

発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www1.u-netsurf.ne.jp/~mine/



秋のプログラム 参加者募集

～天高く 馬肥ゆる秋、馬に乗ろう！～

ファミリープログラム

馬に乗るだけでは物足りないというご家族におすすめです。馬に触れるところから行いますので、初めての方も安心してご参加下さい。

日程：10月27日(土) 午前10時30分～午後4時 *小雨決行

場所：ホーストレッキングわち(京都府船井郡和知町出野小字カジロ)

対象：小・中・高校生のお子さんとそのご家族(定員 3家族)

参加費：1家族¥15,000(現地集合・解散)

(乗馬料金・指導料・写真代・保険料・通信費を含む)

食費1人¥500(小学生以上)

内容：午前 馬に触れる・馬クイズ・ブラシがけ・エサ作り

午後 乗馬・馬小屋そうじ

馬とのふれあいプログラム(特別企画第2弾)

このプログラムは、馬に乗るだけでなく、馬を近くで見る、馬に触ってみる、馬の世話をすること、友達が乗るのを見ることも大切な過程と考えた、ゆっくりとしたプログラムです。

日程：11月11日(日) 午後12時～3時 *小雨決行

場所：服部緑地乗馬センター(豊中市服部緑地1-5)

対象：小・中・高校生(定員 6名) *原則として保護者同伴

参加費：1人¥5,500(現地集合・解散)

(乗馬料金・指導料・ヘルメット、ブーツレンタル料・保険料

通信費・資料代・消費税を含む) *昼食は持参

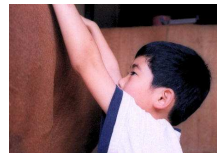
内容：昼食前 馬を近くで見る・馬に触れる

昼食後 ブラシがけ・乗馬・馬小屋そうじ

お問い合わせ・お申し込みは、電話・FAX・Eメールにて事務局まで

馬とのふれあいプログラムについて

特別企画第1弾は6月24日に行いました。子どもたちの主体性を尊重し、例えば乗るのが怖いと思う場合にはその気持ちも大切にしながら、援助をしていきます。また、視覚的な補助が有効な子どもたちには、絵カードを準備し、見通しを持って参加できるようにします。



馬ってあたたかいね



大きな馬に乗ったよ

夏のプログラム活動報告

ウマキャンプ(7/28~31)

暑さにも負けずに、馬の世話や乗馬に励みました。帰るころには、頭の中は馬だらけ・・・？!



夏ならではの草集め



馬ものどがかわきます

ファミリープログラムin 清里(8/12~15)

ブラシがけをすれば、馬との距離はぐっと近くなります。最年少は4歳、馬とすっかりお友達になりました。



ブラシがけはお父さんと一緒



馬の背中は気持ちいいよ



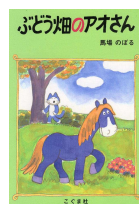
馬のまめちしき ~顔立ちからわかる 馬の性格~

人間にもいろいろな性格の人がいるように、馬にもいろいろな性格があるよ。



🐾 おすすめの本

『ぶどう畑のアオさん』 馬場のぼる こぐま社



森森の中でくらすしているアオさんは、ゆめでみたぶどう畑をさがしにいきます。大きくて、やさしく、ゆったりしていて、そして強いアオさんの心温まるお話です。

おうまの教室

馬の歯は何本あるのかな??

馬の歯には

切歯 (せつし) 前の上下に6本ずつ

臼歯 (せうし) 奥の上下左右に6本ずつ

犬歯 (けんし) オスだけ、臼歯の手前に上下左右1本ずつ があります。つまり、オスは40本、メスは36本の歯があるのです!



馬が草を食べる時は

まず **切歯** で草をかみ切ります。ぶちっ

次に舌で口の奥まで運び **臼歯** で細かくすりつぶします。
ちゅちゅ... ぐーり ぐーり

唾液と混ぜて、スープ状にしてから飲みこんでいます。
ごっくん!

馬に乗る時には

はみ という道具を馬の口の中に入れます。

はみ は、犬歯と臼歯の間のすきまに入っています。



編集後記 遅くなりましたが、第3号の発行です。みなさんはこの暑かった夏を、どのように過ごされたでしょうか。

馬の学校では、ウマキャンプとファミリープログラムを無事に終えることができました。ウマキャンプは今回で9回目を迎えました。毎回子どもたちや馬たちから教えられることが、たくさんあります。清里でのファミリープログラムは初めての試みでしたが、いろいろな出逢いがあり、今後も続けていければと考えています。

夏のウマキャンプでは、大切な仕事の一つに草集めがあります。しんどい仕事ではありますが、子どもたちは馬のためにと一生懸命頑張り、その夜に馬がおいしそうに食べているのを見てとても嬉しそうでした。自分が頑張ったことで誰かが喜んでくれる、そういう体験の中から働くことの喜びを感じ、生きる喜びへとつながっていかれることを願っています。(峯崎友香理)